



相田みつを展

出逢い ~みつをの言葉力~
ことばぢから

昨年11月の第43回はたごまち生き活き講座は、相田みつを美術館館長の相田一人先生にご登場いただきました。その時到来年の4月山形美術館での展示会をご案内されておりましたので、“子供と一緒に必ず行きます”と楽しみにされていた方もおられました。

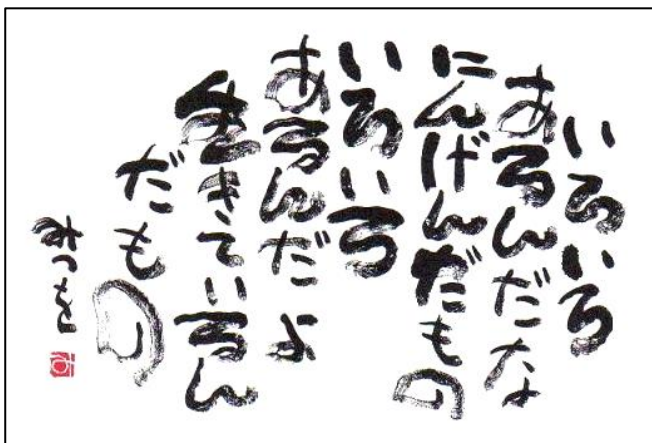
当事務所にもご招待券が届き、私も館長さんのギャラリートークと近藤サトさんの朗読会等を楽しみにしておりましたが、この度のコロナ禍の影響を受けることとなり、作品展示はされましたが、関連イベントは全て中止となりました。

コロナ終息の目処がたたず、不要不急の外出自粛で4月24日で一旦休館となるということでしたので、休館前日に出かけました。当日は、山形美術館全館に展示されている貴重な展示品にたった3人の鑑賞という勿体ない時間でした。そんな中でしたが、今回は「みつをの言葉力(ことばぢから)」を改めて感じるということとなりました。

「つまづいたって いいじゃないか にんげんだもの」「しあわせは いつも じぶんの ところがきめる」など、相田みつをさんの言葉は一度目触れると不思議と記憶に残ります。なぜでしょうか。子どもでもわかるやさしい言葉だから？言葉にリズムがあるから？いえいえ本当の理由は…「～だもの」、それに「～なあ」。何気ない言葉がこの二つと結びつくと、みつをワールドが始まるように思いました。

私は心に響いた作品が多すぎて一つに絞れませんが、あえて選べば「しあわせはいつも じぶんのところがきめる」です。いつも相田みつをさんのお母さんが「今が一番幸せだ！」と言い続けてくれたということを知り、尚更心に染みんでいます。

相田さんは、人間の生きる一刻一刻をととても強く肯定されています。どんなにうまくいかなかったとしても、一生懸命生きていけば、それがみんな肯定的な意味を持っているのだと、非常に力強く、静かに書に表されています。だからこそ、相田さんの作品に對峙したときに、生きる力が湧き上がってくるのだと思います。そして、そんなところに相田さんのすごさがあるのだと私は改めて思います。



「いろいろ…」が二度繰り返される対句のような作品です。難しい言葉は一つもなく、誰でもずっと読めます。だからと言って父が簡単に作ったとは言えません。二行目の「あるんだな」と五行目の「あるんだよ」を、順番を逆にして読んでみてください。微妙な違和感が出てきて喉に引っかかります。最初が「よ」だと他人事になってしまう。ここは、ぐっと自分に引き寄せて「な」にしないとダメだ。そして最後に「よ」でダメ押し、と父はそれこそ「いろいろ」考えて作ったのでしょう。息子の想像ですが、でも、見る方はそんなことは考えません。何の抵抗もなく読めるからです。それが「みつをの言葉力(ことばぢから)」です。館長 相田一人の解説より